



茶

新茶期に向けて作業



農業経営支援課
山本 尚充

《春肥の施用》

早場所では、今月から肥料を施用します。春肥は一番茶の品質向上に関係すると言われていいます。有機主体の配合肥料を2回に分けて施用しましょう。緩行性肥料を配合している場合は、溶出速度で調整し、施肥時期を決めてください。また、肥料吸収を高めるためには、施肥期間中の雨が影響するので、その時の気象状況を見て施肥計画を立てましょう。

通常は、2月中下旬～3月上旬を目安に1回目を施用し、2回目は約2週間後に行いましょう。施用後は必ず土と混和してください。少雨で干ばつ状態が続いている時は、かん水を行い、施用量を減らし、施用回数を増やしましょう。

《定植の準備》

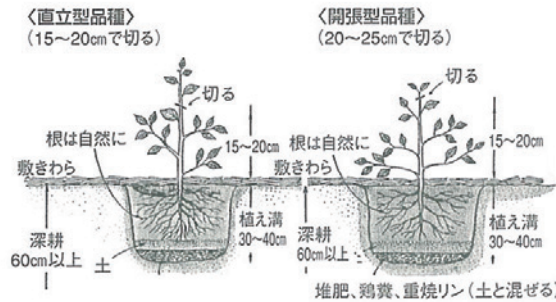
苗木の定植は、3月中旬～4月上旬に行います。国の茶改植支援事業を申請している方は、作業計画を立て、3月20日頃を目安に行ってください。

定植1か月前の2月中旬までに、表1を参考に植え溝を掘り、土を風化させます。その後、植え溝に10a当たり堆肥3～5t、重焼燐100kg程度を投入し、土と良く混ぜて埋め戻しておきます。

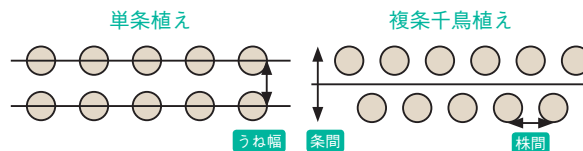
植栽の方法は(1)、(2)を参考に、定植場所と作業環境に即した方法を取りましょう。生育期の施肥作業の省力化のためコーティング肥料をおすすめします。また、植え付け後の根の活着を良くするため、かん水を必ず行いましょう。

表1 植栽方法

植え方	うね幅(m)	株間(cm)	条間(cm)	10a当り苗木数(本)
単条植え	1.5	30～45	—	2,222～1,481
	1.8	30～45	—	1,852～1,235
千鳥植え	1.5	60～90	30	2,222～1,481
	1.8	60～90	30	1,852～1,235
千鳥植え 乗用型	1.8	50～80	45～60	2,222～1,389



(1) 苗木の定植 (単条植え)



(2) 植え方